

「神通川馳越線工事100年」 川と街づくり国際フォーラム



2002年12/9 実行委員会が 発足しました

【出席者】(敬称略・五十音順)

■実行委員 浅岡節夫(音楽家)・池田安隆(池田屋安兵衛商店 社長)・稲葉実(三四五建築研究所 社長)・片野優子(フリーアナウンサー)・北山直人(北山ナーセリー 社長)・嶋倉幸夫(林建設工業 社長)・中田千鶴子(声の会、千代会和紙花絵研究会主宰)・中村孝一(グッドラック 社長)・中村高志(富山フジカラー販売部付 担当課長)・花柳松香(舞踊家・花柳流専門部教授)・濱谷元一郎(富山商工会議所 専務理事)・藤井裕久(日本青年会議所富山ブロック協議会 会長)・堀江秀雄(堀江商会 会長)・前田和彦(日本マンドリン連盟常任理事 北陸支部長)・松井幹夫(まちづくりとやま 副社長)・源八郎(源 社長)・山崎佐和子(竹林堂本舗 常務)・吉田榮一(月世界本舗 社長)・渡辺美保子(富山国際職業学院 園芸研究員)

■オブザーバー 石川俊之(国土交通省北陸地方整備局富山工事事務所調査第一課 課長)・坂野俊広(富山県土木部河川課 管理係長)・作田正樹(富山市商工労働部観光振興課観光振興係 係長)

【役員】

委員長/浅岡節夫 副委員長/吉田榮一、北山直人 監事/源八郎、池田安隆 事務局長/中村孝一

■記念フォーラム

フォーラムは、神通川が人々にもたらしてきた恩恵や役割、そして洪水の歴史と馳越線工事の背景、廢川地や、川を中心とした街づくりの100年の歴史について振り返るとともに、海外の街づくりの事例も参考

2003年の神通川馳越線工事100年を記念して企画された「川と街づくり国際フォーラム」の第1回実行委員会が2002年12月9日、富山城址公園内の松川茶屋にて行なわれた。

委員25名のうち20名が出席、オブザーバーとして、

行政の専門家を迎えて行な

われた実行委員会では、各

委員の自己紹介のあと、浅

岡節夫委員長はじめ上記の

役員が選ばれ、承認された。

にしながら、未来の富山の街づくりについて話し合う機会となるようにと企画。

特に、松川と同じく治水を目的として生まれた川を中心として街を作りだし、コンベンションシティへと発展したアメリカ・サンアントニオから識者を招くことが事務局から提案された。

タイトルは「川と街づくり国際フォーラム」に決定。テーマ、キャッチフレーズとなるようなサブタイトルを委員がそれぞれ考案し、その中から検討することになった。

■開催時期について

2003年秋のフォーラム開催を目標に、関連イベント等の企画・運営をすすめていく。

関連イベント(案)

【舟橋と川べり散歩】

64艘の舟を鎖でつないだ「舟橋」がかけられていたという場所で、松川べりを散歩しながらかつての川幅を体験してみよう。



【神通川馳越線工事ジオラマ展】

耳慣れない100年前に完成した「はせこしせんこうじ」とはどのような工事だったのか。工事に関わった人々や歴史を展示・実演するとともに、現在、市街に洪水がおこらないよう川の水がどのように調整されているか(風船ダムの仕組み等)を知る機会に。

【富山誕生博覧会】

神通川が蛇行して流れていた頃にあった西洋料理店、洋館建ての県庁や県会議事堂など近代化の真っ只中にあった明治の富山の街をミニチュアで再現してみる。(特にこれは、小中高生の手で再現してもらうという方法で進めていく)

【川のおはなしを聞く会】

馳越線工事で大きく変容を遂げた富山の街。楽しい川遊びのお話や空襲の焼け野原から立ち上がっていった街の変遷。映像や写真を見ながら、富山と神通川の歴史の語りべである皆さんにお話を聞く会。

【松川七橋めぐり体験】

情緒あふれる笹舟、にぎやかなイルミネーションの船で松川にかかる橋がもつ歴史を巡りながらの楽しい船旅を体験。

その他、実行委員会では、各委員からアイデアを募集し、分科会を設け、具体的に進めていく。また、既成のイベントとのタイアップで、さらに多くの市民の皆さんに参加していただけるよう呼びかけていくことも提案された。

読者の皆さんは、こんなイベントをやってはどうかというご提案・ご意見、また、神通川・松川へ寄せる思いや昔の記憶など何でもかまいませんので、ぜひグッドラック内の事務局までお送りください。お待ちしております！